

戦後75年、戦争体験を次の世代へ 冊子の発行を行いました！

戦後 75 年を迎え、戦争を体験したことのある人や戦争体験を聞いたことのある人が少なくなりつつあります。八幡台公民館では戦争体験を募集し、冊子にまとめる活動を行いました。ご協力、ありがとうございました。今回はピックアップしたものを紹介します。

戦時中の小学生のある日

毎週一日は、登校する時各家庭にある磁石に紐を付け、ゴロゴロと引きずりながら登校します。

なんだと思いませんか？ 道に落ちている鉄くずや釘等をひきつけさせるためです。そして、学校では、当番の人がそれを箱の中に集めて各クラス毎に集めるのです。それは鉄砲の弾丸になるということです。銃後を守る少国民の子供達は、今自分達のできることでお国のお役に立ちたいと一生懸命でした。下町には小さな鉄工所や板金工場などがあり、大きな鉄くずや削りかすなどは工場で供出するのですが、砂の中に残っている物等が子供達の磁石に付くのです。工場のそばを通る時は、皆大きな魚を釣るような気持ちでワクワクしました。子供心は純でした。 ～以下省略～

ほかにも、「大阪大空襲を経験した話」や「満州からの引き揚げの話」などを教えてくださった方もいました。八幡台地区は全国から来ている方が多いので、幅広い戦争体験が集まりました。冊子は八幡台公民館に配架してあるほか、八幡台小学校及び波岡中学校にも冊子を謹呈し、次世代へ伝えていきます。

イベントの開催状況

実施期間；令和2年9月11日～11月30日
主催；八幡台公民館

はちまんだいこうみんかん
TEL36-4010 FAX36-4013

